

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年7月4日(2013.7.4)

【公開番号】特開2011-162664(P2011-162664A)

【公開日】平成23年8月25日(2011.8.25)

【年通号数】公開・登録公報2011-034

【出願番号】特願2010-27076(P2010-27076)

【国際特許分類】

C 08 F 220/10 (2006.01)

C 09 D 4/00 (2006.01)

C 09 D 7/12 (2006.01)

【F I】

C 08 F 220/10

C 09 D 4/00

C 09 D 7/12

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月22日(2013.5.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

炭素数6以上の脂肪酸からなる脂肪酸アミド構造と、アルキレンオキサイド構造と、アクリロイル基またはメタクリロイル基とを有する活性エネルギー線硬化性化合物(A)と、

前記活性エネルギー線硬化性化合物(A)とは異なる活性エネルギー線硬化性化合物(B)と、

を含有する活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項2】

前記活性エネルギー線硬化性化合物(A)の脂肪酸アミド構造は、炭素数6以上の脂肪酸(a1)と水酸基を有する第1級または第2級アミン(a2)を反応させることにより形成されたものである、請求項1記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項3】

前記活性エネルギー線硬化性化合物(A)の脂肪酸アミド構造は、炭素数12以上の脂肪酸(a1)と水酸基を有する第1級または第2級アミン(a2)とを反応させることにより形成されたものである、請求項2記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項4】

前記活性エネルギー線硬化性化合物(A)の脂肪酸アミド構造は、炭素数12~24の脂肪酸(a1)と水酸基を有する第1級または第2級アミン(a2)とを反応させることにより形成されたものである、請求項3記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項5】

前記活性エネルギー線硬化性化合物(A)は、前記水酸基を有する第1級または第2級アミン(a2)の水酸基に由来するウレタン結合を介して、アクリロイル基またはメタクリロイル基が導入されている、請求項2~4記載のいずれか1項記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項6】

前記ウレタン結合は、水酸基を有する第1級または第2級アミン(a 2)に由来する少なくとも一部の水酸基を、アクリロイル基またはメタクリロイル基とイソシアネート基とを有する化合物(a 3)を反応させることにより形成されたものである、請求項5記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項7】

前記アルキレンオキサイド構造が、水酸基を有する第1級または第2級アミン(a 2)由来の水酸基とイソシアネート基とを有する化合物(a 3)との反応により生成してなるものか、又は脂肪酸(a 1)と水酸基を有する第1級または第2級アミン(a 2)との反応により生じた脂肪酸アミド中の水酸基を有する第1級または第2級アミン(a 2)由来の水酸基に付加されたアルキレンオキサイド鎖であることを特徴とする請求項6記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項8】

前記水酸基を有するアミン(a 2)の水酸基が2個であることを特徴とする請求項2~7のいずれか1項記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項9】

前記活性エネルギー線硬化性化合物(A)は、アクリロイル基またはメタクリロイル基を、平均で1分子中に1個よりも多く有するものである、請求項1~8のいずれか1項記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項10】

耐指紋性硬化塗膜形成用である、請求項1~9のいずれか1項記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項11】

ガラス、プラスチック、金属、木質部材および紙の中から選ばれる少なくとも1つの部材の少なくとも一部に、請求項1~10のいずれか1項記載の活性エネルギー線硬化性組成物から形成される硬化塗膜が設けられてなる、硬化塗膜付き部材。